

第8章 平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要

1 平成7年度山口大学構内遺跡調査の概要

平成7年度は、事前調査2件、試掘調査8件、立会調査9件の計18件の調査を実施した。吉田構内では事前調査2件、試掘調査6件、立会調査7件を実施した。農学部R I実験研究施設新営に伴う発掘調査では、井戸1基、大溝1条と小溝5条を検出した。井戸は大溝によって南側部分が削平を受けている。時期は16世紀前半と考えられる。大溝及び小溝は、近世水田に伴うものであった。調査区は近世における水田の開墾によって著しい削平を受けており、水田開墾以前の遺構や遺物包含層については、井戸1基を除いて検出できなかった。公共下水道接続に伴う発掘調査では、弥生時代前期の溝4条、土坑13基、多数の柱穴など多くの遺構を検出した。出土した弥生時代前期の土器は前期中頃のもので主体である。この調査で、吉田遺跡が山口県内でも数少ない、弥生時代全般にわたって継続的に営まれた集落であることが判明した。農学部附属農場牛舎新営に伴う試掘調査では造成による削平が著しく、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。独身宿舍改修に伴う試掘調査では、旧水田耕土下に摩耗した土器片を含む層が堆積していたが、遺構はなく、土器片を含む層は流れ込みによって形成されたものと考えられる。第2学生食堂増築に伴う試掘調査では、A、B、2ヶ所のトレンチを設けて調査を行った。Aトレンチには遺構は認められなかったが、Bトレンチでは柱穴2基を検出した。また、立会調査では、基幹環境整備工事に伴う立会調査で河川を検出した。その他の立会調査では顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

亀山構内では、立会調査1件を実施したが、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

小串構内では試掘調査1件を実施した。医学部看護婦宿舍新営に伴う試掘調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

常盤構内では試掘調査1件を実施した。国際交流会館新営に伴う試掘調査では、旧地形は大きく削平されていたが、北端と南端部分で遺物包含層の可能性のある土層を確認した。また、隣接した畑地からは、縄文時代の石鏃1点を採集した。

2 平成10年度山口大学構内遺跡調査の概要

平成10年度は事前調査3件、試掘調査2件、立会調査7件の計12件の調査を実施した。

吉田構内では、事前調査1件、試掘調査1件、立会調査6件を実施した。第2学生食堂の増築及び改修に伴う発掘調査では、弥生時代前期末の土器溜まり1ヶ所、平安時代の

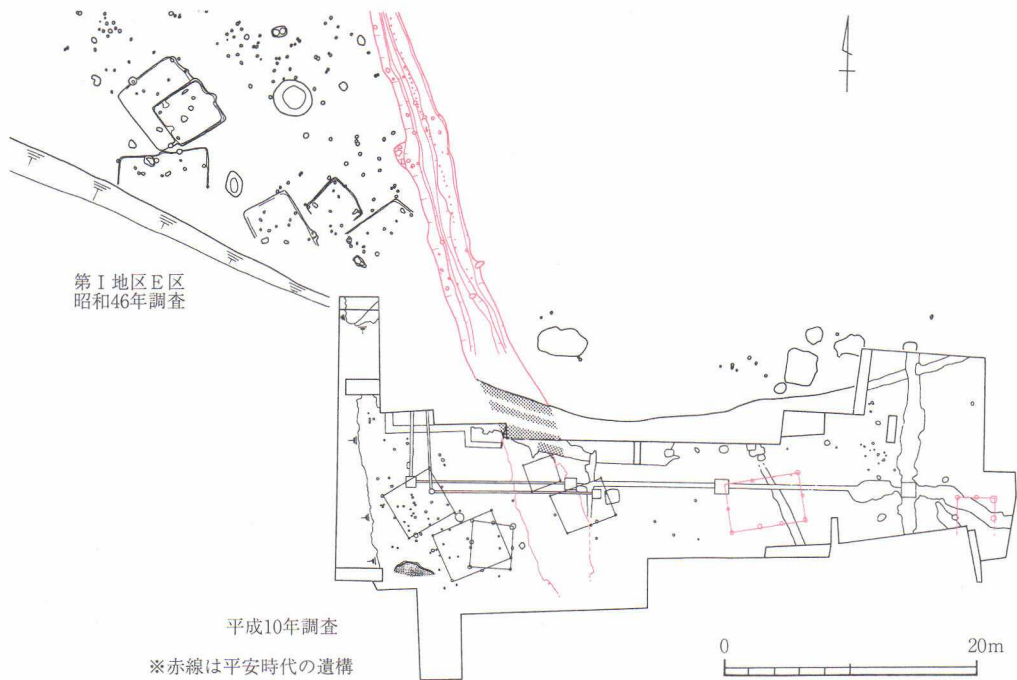


Fig.80 第2学生食堂調査区位置図

溝1条、掘立柱建物2棟、中世の掘立柱建物5棟、古代～中世の多数の柱穴、遺物包含層などを検出した。また、弥生土器、8～10世紀の土師器、須恵器をはじめ、縄文～弥生時代の石器など、縄文時代～中世の遺物が出土した。検出した遺構のうち、平安時代の大溝は昭和46年調査部分と合わせて、長さが約50mに及ぶことが判明した (Fig.80)。溝の東側に同時期の建物や柱穴が分布することから、大溝はこれらの施設の区画を意図したものと考えられる。調査地から約100m北西に位置する大学会館敷地では、木簡、石帯、緑釉陶器、墨書土器、円面硯など、官衙関連施設に特有な遺物が検出されている¹⁾。この調査で検出した遺構群はこれらを裏付けるものとして評価できる。教育学部附属養護学校給食室改修に伴う試掘調査では、調査面積は狭小であったが、近世～近代の水田に伴う杭列や弥生～古墳時代の土坑、縄文時代の河川を検出した。立会調査は小規模なものが多く、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

小串構内では事前調査2件を実施した。宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査(1次)では、弥生時代終末～古墳時代初頭の土器の集中部、近世～近代の木組用水路、小溝、杭列及び畝溝などの遺構を検出し、旧石器時代の剥片類、縄文時代～近世・近代の土器片などが出土した。特に弥生時代終末～古墳時代初頭の土器については、医学部構内はもとよ

り、近辺でもこの時期の遺物が出土した例がないことから貴重な発見となった。宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査（2次）では、弥生時代終末～古墳時代の土器集中部と近世～近代の小溝を検出した。またほぼ完形に復元できる縄文時代後期の鐘ヶ崎式土器が1点出土した。1・2次調査の意義は宇部市域の低地部における遺物の出土を確認したことに集約される。縄文土器、弥生土器、土師器が出土したことから、調査地付近に集落が形成されていた可能性を示すものであり、今後の調査が期待される。

亀山構内、光構内では教育学部附属小・中学校の給食室改修に伴い、試掘調査・立会調査を実施したが、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

3 平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要

平成11年は事前調査1件、試掘調査1件、立会調査6件の計7件の調査を実施した。

吉田構内では立会調査5件を実施した。第2学生食堂新営その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会調査では、農学部実験畑のC地点で古墳時代～古代の遺物包含層と柱穴、ボイラー室北側のD地点で平安時代の河川を検出した。その他の立会調査では顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

小串構内では事前調査1件を実施した。宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査（3次）では、旧石器時代のメノウ製の剥片類、近世～近代の暗渠、木組用水路・土坑を検出し、これらに伴って陶磁器類が出土した。

光構内では試掘調査1件、立会調査を1件を実施した。教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修に伴う試掘・立会調査では、古墳時代～中世の遺物包含層、古墳時代～中世の柱穴、土坑、近世～近代の土坑、埋甕を検出し、土師器、須恵器、近世～近代の陶磁器が出土した。特に小学校運動場のCトレンチからは古墳時代の遺物包含層から土師器、須恵器が多数出土し、全国的にも希な韓式系竈形土器が出土した。また、附属中学校体育館前のJ地点では、中学校体育館建設時に発見された黒褐色砂礫層と同一とみられる青黒色砂層を検出し、土師器、須恵器、竈形土器が出土した。この調査によって、光構内の広い範囲で、古墳時代、近世～近代の遺構・遺物が分布していることが明らかとなった。

4 平成12年度山口大学構内遺跡調査の概要

平成12年度は事前調査1件、試掘調査2件、立会調査11件の合計14件の調査を実施した。

吉田構内では試掘調査1件、事前調査1件、立会調査8件を実施した。総合研究棟新営に伴う発掘調査では、平安時代の河川、中～近世の柱穴、土坑を検出し、弥生土器、土師器、須恵器などが出土した。注目すべき遺物として、吉田遺跡で3点目となる円面硯（Fig.82-1）

と製塩土器片がある。河川の遺物の分布は調査区東部に集中していることから、同時期の遺構は調査地の東に隣接する家畜病院付近に分布していると推測される。立会調査では災害復旧架空電線埋設工事に伴う立会調査、基幹環境整備（外灯新設）工事に伴う立会調査の一部で遺構・遺物を確認したほかは、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

常盤構内では試掘調査1件を実施した。福利厚生棟新営に伴う試掘調査では顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

亀山構内では立会調査1件を実施したが、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

光構内では立会調査2件を実施した。このうち、災害復旧教育学部附属光小・中学校護岸石積改修工事に伴う立会調査では、一部の地点で近世～近代の石垣を検出し、陶磁器が出土した。

5 平成13年度山口大学構内遺跡調査の概要

平成13年度は試掘調査3件、立会調査9件の合計12件の調査を実施した。

吉田構内では、試掘調査1件、立会調査9件を実施した。経済学部校舎改修プレハブ校舎新営に伴う試掘調査では1条の河川を検出し、縄文土器、土師器、須恵器が出土した。立会調査では、総合研究棟新営屋外配管布設工事に伴う立会調査と環境整備（外灯）工事に伴う立会調査で河川を検出したが、遺物は出土しなかった。その他の立会調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

小串構内では試掘調査1件を実施した。医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査では、現地表下1.6m以上の深さの暗灰色砂、暗灰色粗砂から弥生時代～中世の土器が出土した。従来考えられていたより深い土層に遺物が含まれていることが明らかとなり、小串構内で地下掘削を伴う施設整備に際しては、より慎重に対応する必要性が生じた。

常盤構内では試掘調査1件を実施した。インキュベーションセンター新営に伴う試掘調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

6 平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要

平成14年度は事前調査1件、試掘調査3件、立会調査8件の合計12件の調査を実施した。

吉田構内では、事前調査1件、立会調査6件を実施した。農学部校舎他改修（解剖実習棟校舎新営）に伴う発掘調査²⁾では、調査地の北部で8～10世紀の遺物包含層と柱穴、土坑、掘立柱建物跡6棟と柵列、調査地の南部では、平安時代の河川と3棟の掘立柱建物を検出した（Fig.81）。出土遺物（Fig.82）には、土師器、須恵器、墨書土器（須恵器坏蓋）「官」（2）、緑釉陶器（3～9）、六連式製塩土器（10～18）、瓦片（19）、鞆羽口（20・21）、鉞尾（22）・

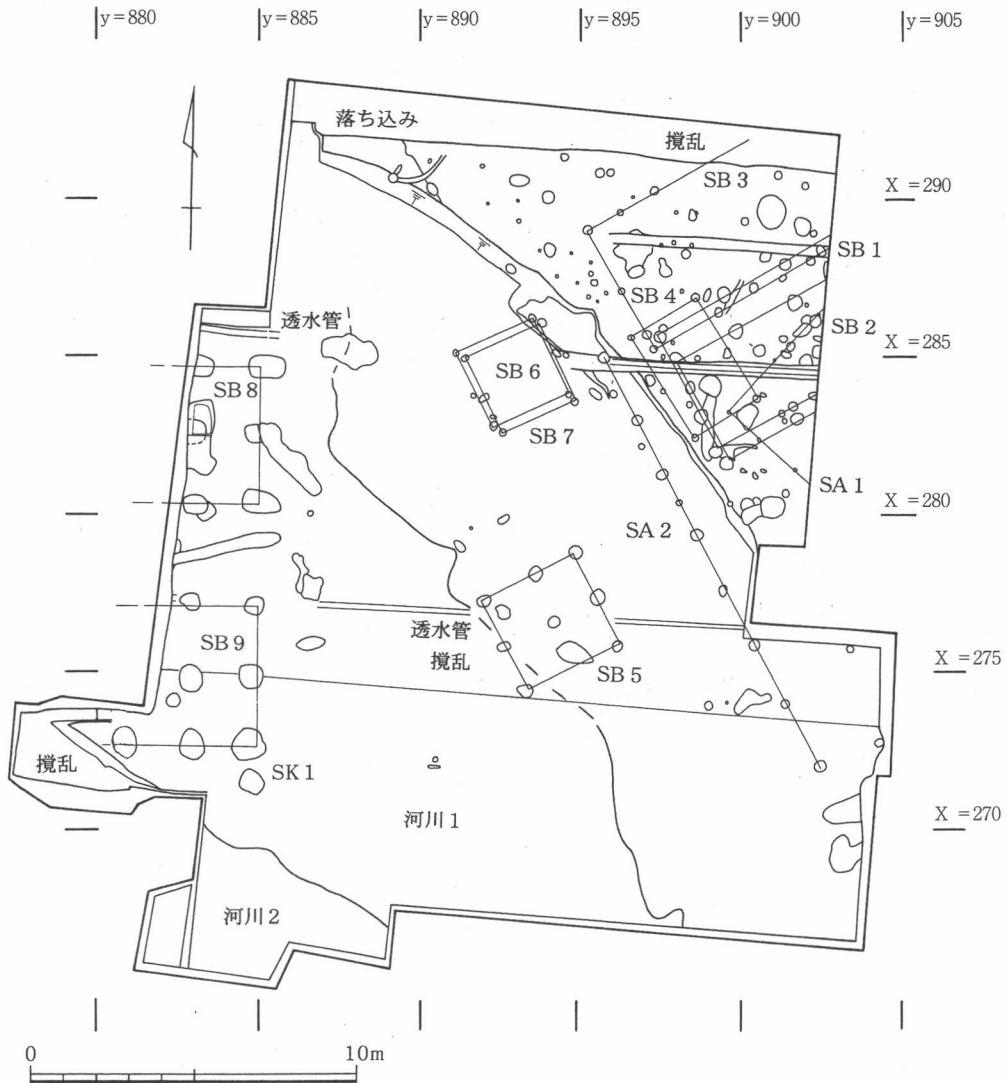


Fig.81 農学部解剖実習棟調査区遺構概略図

銅鉞石、鉞滓などがある。墨書土器は判読しにくい、摘みと天井部の2ヶ所に「官」の文字が認められる。緑釉陶器には3・6・9のように赤褐色に発色しているものがあり、何らかの要因で還元状態で二次的に被熱したものと考えられる。³⁾ 鉞尾は鑄棹とバリがついた未製品で、調査区近辺で製作されたことが明らかである。この鉞尾は最小の部類に属するもので、ほぼ同規格の製品が大阪府船橋遺跡、平城京、山形県牛森古墳などで出土しており、⁴⁾ 腰帯具の生産及び流通を探る上で貴重な資料と位置づけられる。前述のように、調

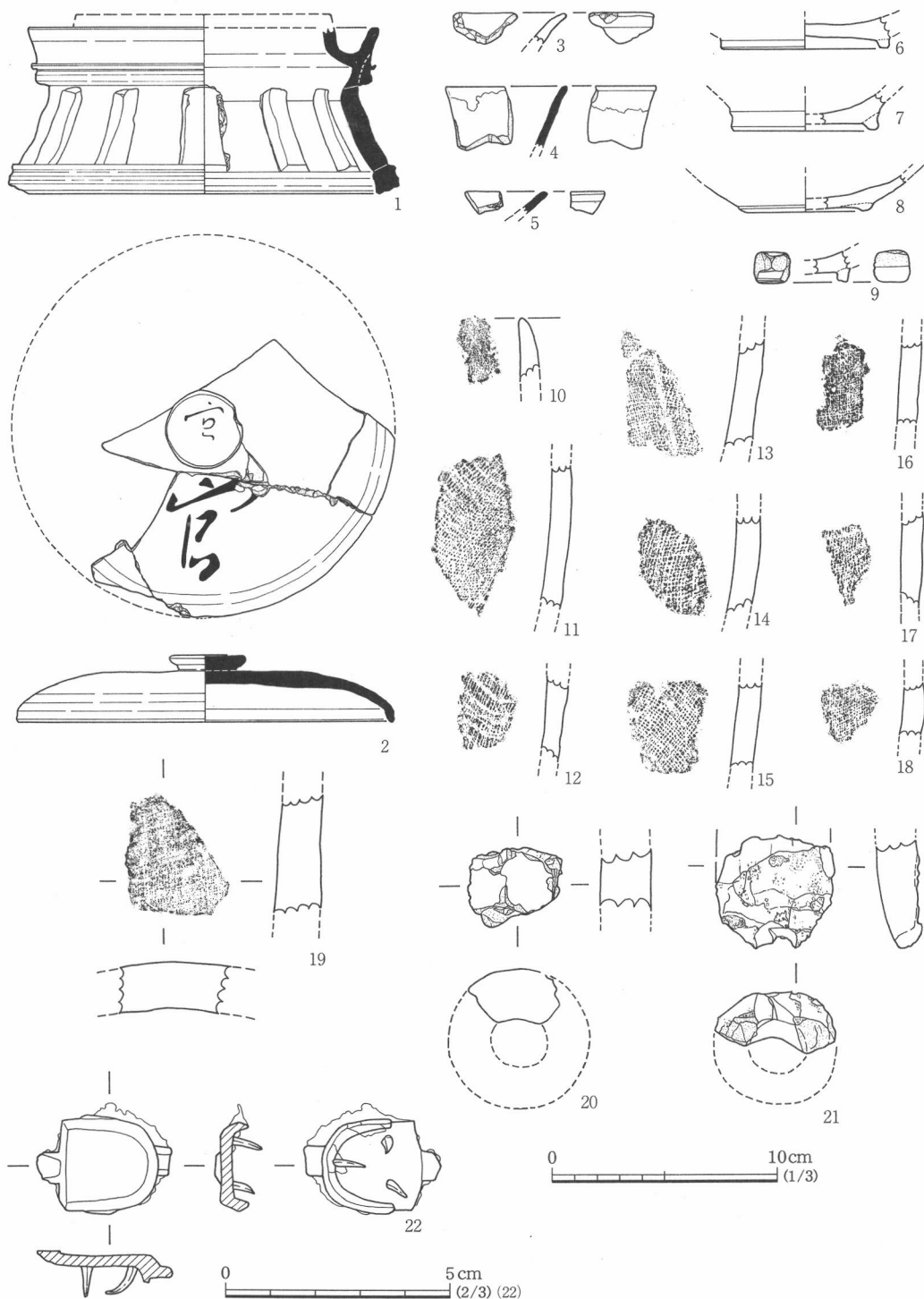


Fig.82 総合研究棟・農学部解剖実習棟敷地出土遺物実測図

査区に隣接する総合研究棟の新営に伴う発掘調査では、同じ河川から円面硯、墨書土器などが出土している。また、北西に約300m離れた第2学生食堂敷地では、平安時代の大溝、掘立柱建物、大学会館敷地では、円面硯、墨書土器、石帯など特殊な遺物が出土している。しかし、これらの調査においては、金属生産に係わる遺物はほとんど出土しておらず、解剖実習棟敷地周辺には工房域が存在していた可能性が考えられる。いずれにせよ、吉田構内の東半部の広い範囲で何らかの官衙関連施設が存在したことが確実となった。詳細については、本報告時に検討したい。

立会調査では、農学部附属農場実験圃場整地工事に伴う立会調査で、遺物包含層を検出した。また、農学部校舎他改修工事に伴う立会調査では、現地表下約10~40cmで、連合獣医学科棟で検出されたものと同一と考えられる縄文時代の河川を検出した。

亀山構内では立会調査2件を実施した。このうち、教育学部附属山口中学校給水設備改修工事に伴う立会調査では、運動場で現地表下約40cmで河川堆積土、テニスコート敷地で現地表下約50cmで柱穴6基を検出し、土師器小片が出土した。

小串構内では試掘調査2件を実施した。総合研究棟新営に伴う試掘調査では、現地表下1.6m以上の深さの砂層から、縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器、陶器など多様な遺物が出土した。このうち、1点ではあるが、六連式土器の胴部片が出土したことが注目される。宇部市域では東岐波波雁ヶ浜遺跡に続いて2例目となり、遺跡の性格を解明する上で、貴重な手がかりが得られた。高エネルギー棟新営に伴う試掘調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

常盤構内では試掘調査1件を実施した。総合研究棟新営に伴う試掘調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

(田畑)

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内大学会館新営に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985年)
- 2) 田畑直彦「山口大学構内吉田遺跡－農学部校舎改修(解剖実習棟新営)に伴う発掘調査略報－」(『山口考古』第22号、37-40、2002年)
- 3) 防府市教育委員会 杉原和恵氏のご教示による。
- 4) 秋山浩三「大阪府の鍔帯」(奈良文化財研究所編『鍔帯をめぐる諸問題』、2002年)

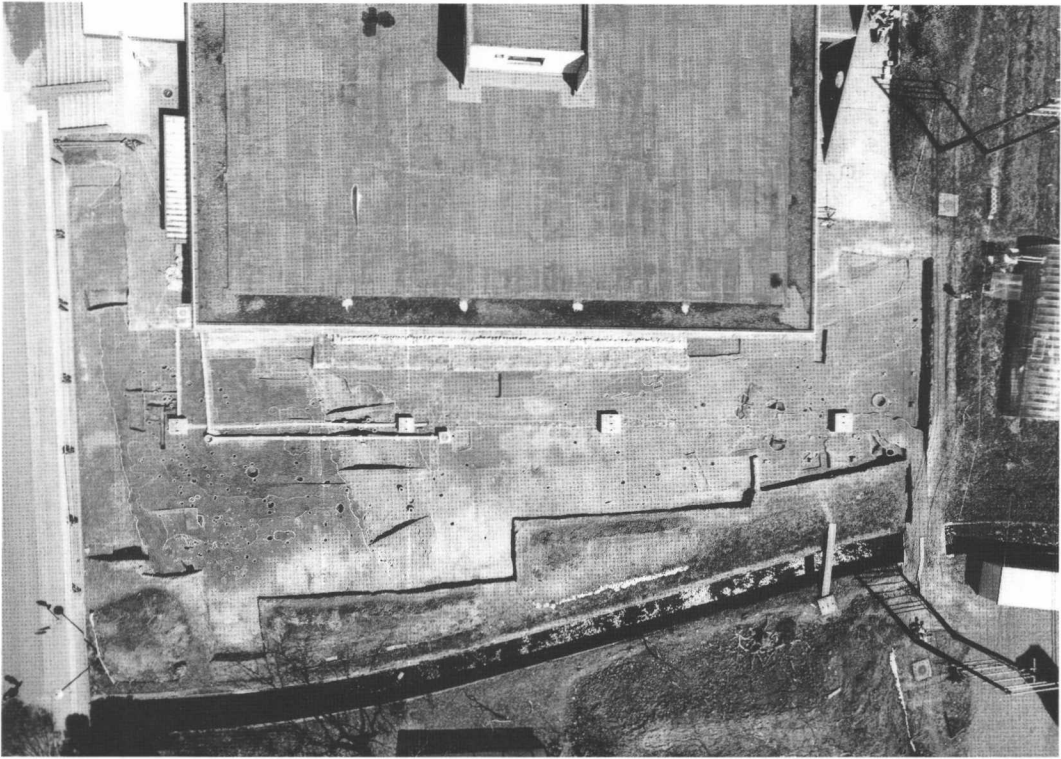
Tab.11 出土遺物観察表（土器）

法量（ ）は復元値

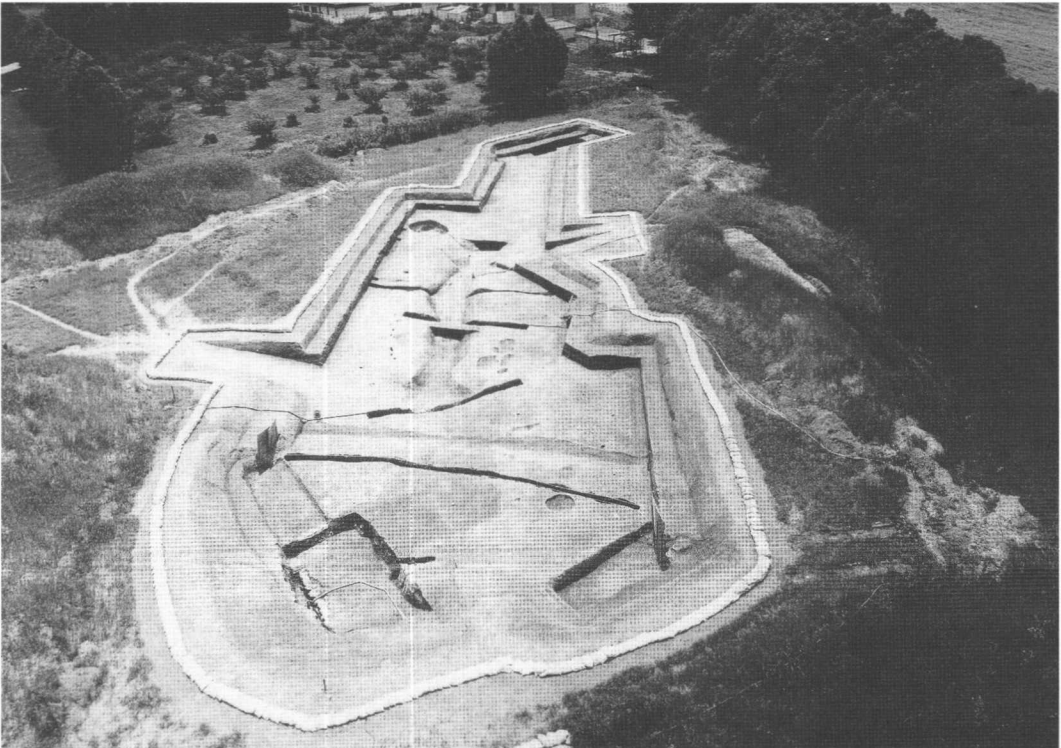
| 遺物番号 | 出土遺構 | 器種 | 部位 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 色調 ①外面②内面 | 胎土 | 備考 |
|------|-----------------|---------|--------|------------|--------------|------------|---------------------|-------------------|-----------------------|
| 1 | 総合研究棟敷地 河川 | 須恵器 円面硯 | 海～脚部 | (15.6) | (15.6) | | ①灰色 ②明青灰色 | 0.5～1.5mmの砂粒を含む | 海部に墨付着 |
| 2 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 須恵器 坏蓋 | 天井～口縁部 | (16.6) | | 3.0 | 灰～青灰色 | 0.5～4mmの砂粒を含む | 「官」の墨書あり 内面にも墨付着、転用説か |
| 3 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 緑釉陶器 埴 | 口縁部 | | | | 素地 灰白色 釉 暗赤褐色 | 0.5～1mmの砂粒をわずかに含む | 土師質 |
| 4 | 農学部解剖実習棟敷地 水田耕土 | 緑釉陶器 埴 | 口縁部 | | | | 素地 青灰色 釉 オリーブ灰色 | 0.5～1mmの砂粒を含む | 須恵質 |
| 5 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 緑釉陶器 埴 | 口縁部 | | | | 素地 青灰色 釉 オリーブ灰色 | 精良 | 須恵質 |
| 6 | 農学部解剖実習棟敷地 水田耕土 | 緑釉陶器 埴 | 底部 | | (7.2) | | 素地 灰白色 釉 暗赤色 | 0.5～1.5mmの砂粒を含む | 土師質 |
| 7 | 農学部解剖実習棟敷地 清掃時 | 緑釉陶器 埴 | 底部 | | (6.4) | | 素地 灰白色 釉 浅黄褐色 | 0.5mmの砂粒を含む | 土師質 |
| 8 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 緑釉陶器 埴 | 底部 | | (5.1) | | 素地 灰～橙色 釉 オリーブ黄色 | 0.5～1mmの砂粒を含む | 土師質 |
| 9 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 緑釉陶器 埴 | 底部 | | | | 素地 灰白色 釉 暗赤褐色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | 土師質 |
| 10 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 六連式製塩土器 | 口縁部 | | | | 橙色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 11 | 農学部解剖実習棟敷地 包含層 | 六連式製塩土器 | 胴部 | | | | 橙色 | 1～3mmの砂粒を含む | |
| 12 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 六連式製塩土器 | 胴部 | | | | ①青灰色 ②橙色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | 須恵質 |
| 13 | 農学部解剖実習棟敷地 包含層 | 六連式製塩土器 | 胴部 | | | | ①にぶい橙色 ②橙色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 14 | 農学部解剖実習棟敷地 包含層 | 六連式製塩土器 | 胴部 | | | | ①灰色 ②橙色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 15 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 六連式製塩土器 | 胴部 | | | | 灰黄色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | |
| 16 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 六連式製塩土器 | 胴部 | | | | にぶい黄褐色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 17 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 六連式製塩土器 | 胴部 | | | | ①灰黄褐色 ②橙色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | |
| 18 | 農学部解剖実習棟敷地 包含層 | 六連式製塩土器 | 胴部 | | | | 橙色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 19 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 瓦 | | | | | ①灰白色 ②橙色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 20 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 罎口 | 胴部 | | | | ①暗灰～灰白色 ②浅黄褐色 | 1～3mmの砂粒を含む | 被熱 |
| 21 | 農学部解剖実習棟敷地 SK1 | 罎口 | 裾部 | | 裾部径 (5.8) | | ①黄灰色 ②橙色 | 1～3mmの砂粒を含む | 被熱 ガラス質付着 |

Tab.12 遺物観察表（青銅製品）

| 遺物番号 | 出土遺構 | 器種 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 備考 |
|------|----------------|----|-------------|-------------|-------------|-----------|--|
| 21 | 農学部解剖実習棟敷地 河川1 | 鉞尾 | 3.0 | 2.2 | 1.1 | 9.69 | バリと鋳滓が残る未製品。全面に緑青が吹いている。爪は廃棄後に折れ曲がったものか。 |



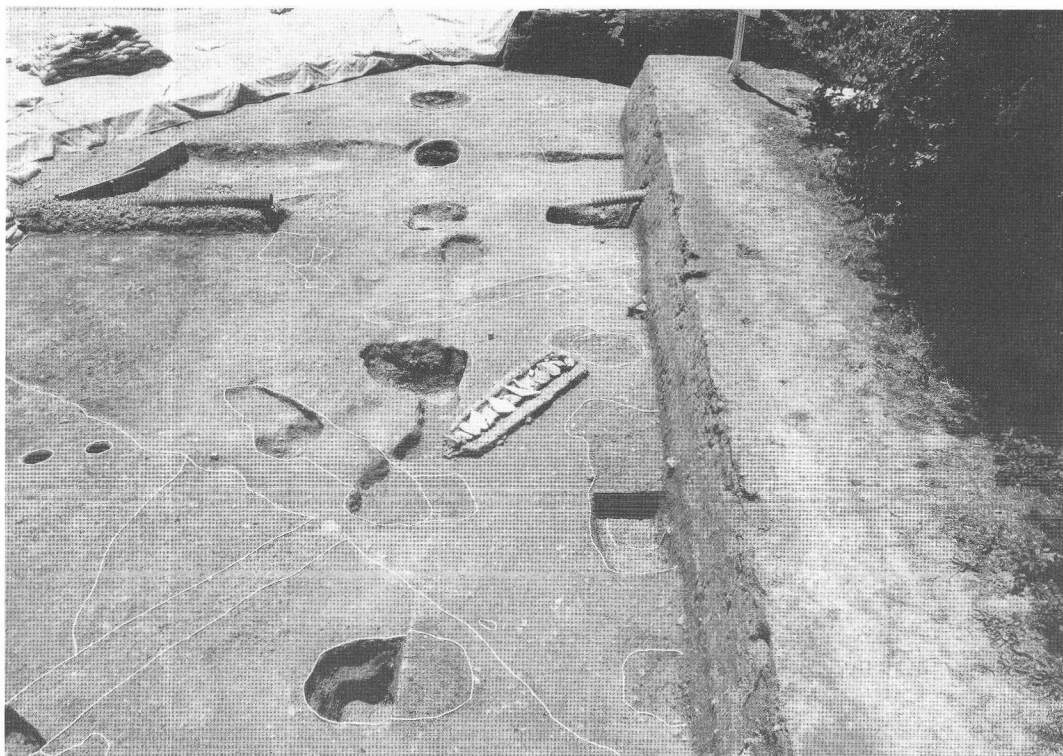
(1) 吉田構内第2学生食堂増築に伴う発掘調査・調査区全景（南から）



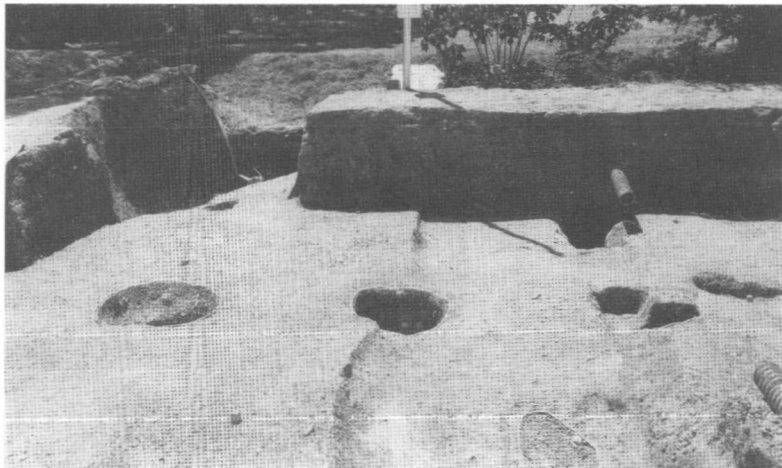
(2) 吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査・調査区全景（西から）



(1) 吉田構内農学部校舎改修（解剖実習棟新営）に伴う発掘調査・調査区全景（南から）



(2) 掘立柱建物 SB 8・SB 9（北から）



(1) SB 9 (東から)



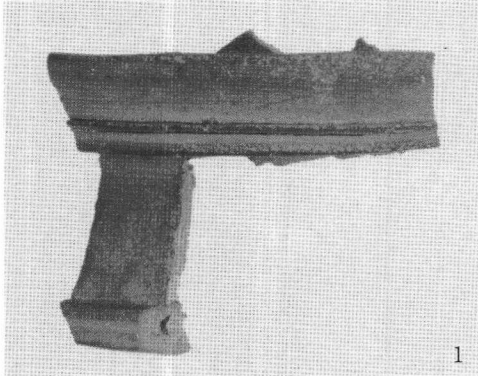
(2) 河川1 土器出土状況 (東から)



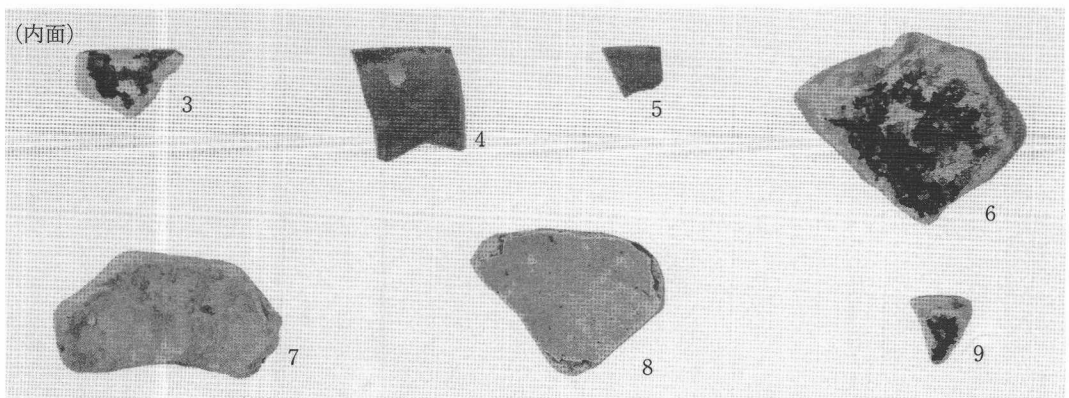
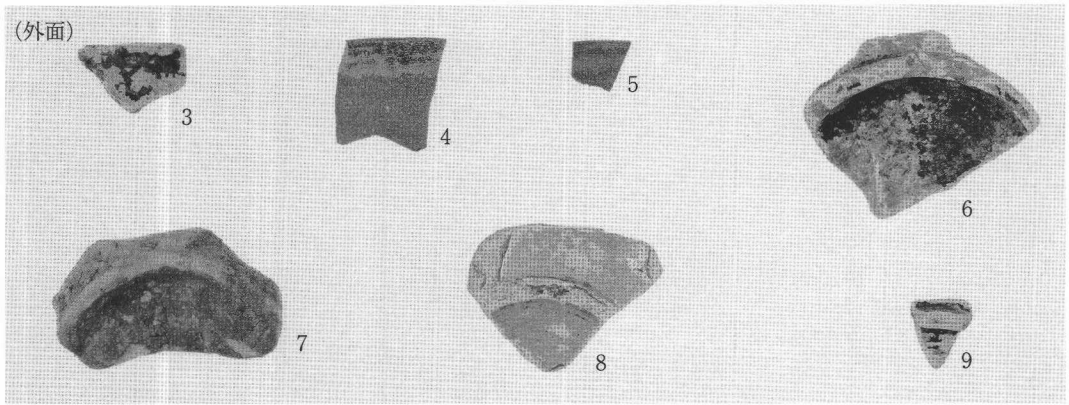
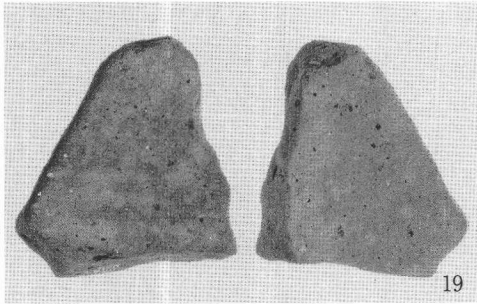
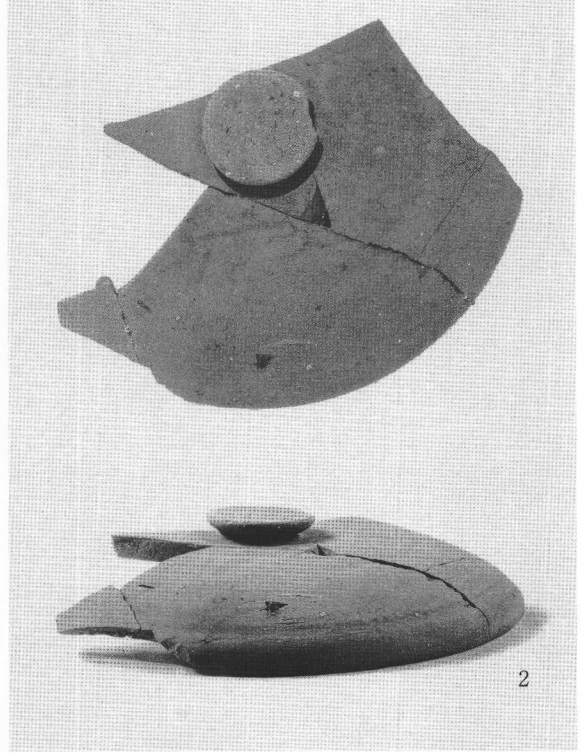
(3) 河川1・2南壁土層断面 (調査区南西隅・北から)



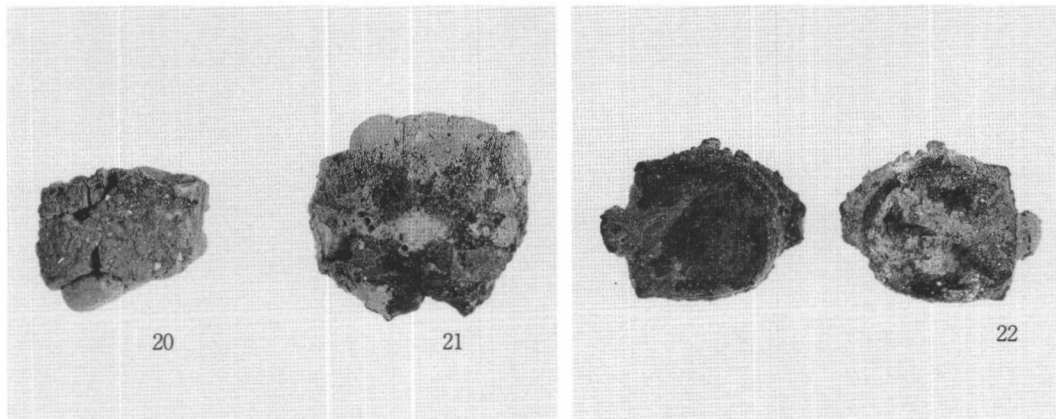
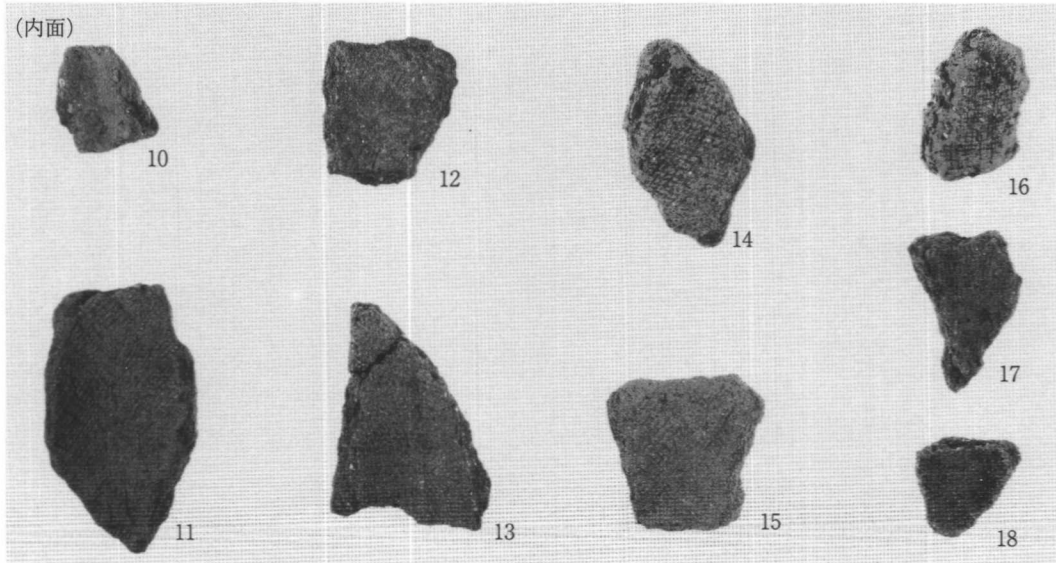
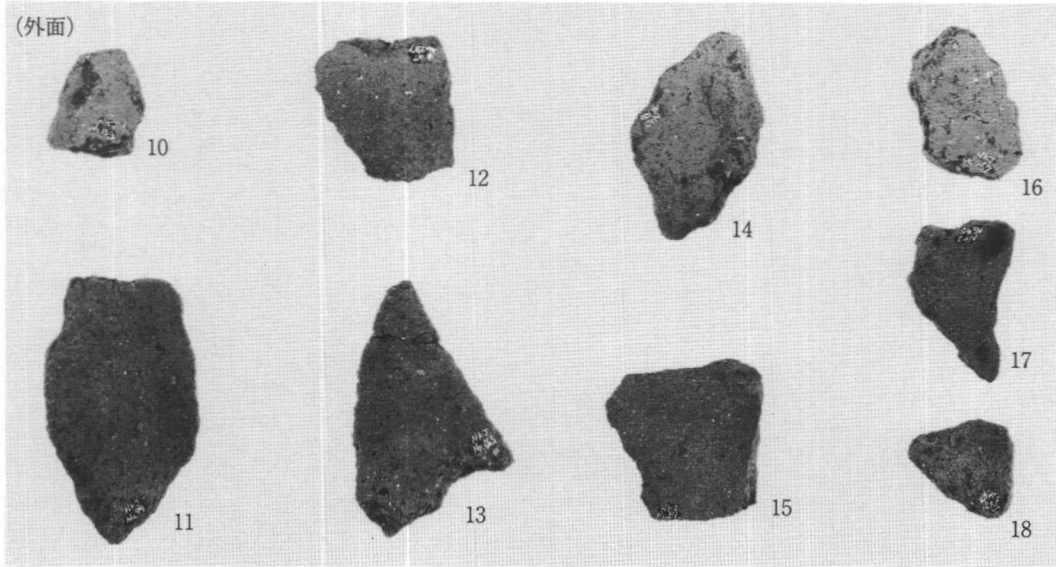
(4) 河川1・2南壁花粉分析試料採取地点土層断面 (北から)



(1) 吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査出土須恵器円面硯



(2) 吉田構内農学部校舎改修（解剖実習棟新営）に伴う発掘調査出土遺物①
（2須恵器坏蓋 [天井部に「官」の墨書], 3～9緑釉陶器, 19瓦）



吉田構内農学部校舎改修（解剖実習棟新営）に伴う発掘調査出土遺物②
 (10～18 六連式製塩土器, 20・21 轆口, 22 鉞尾)